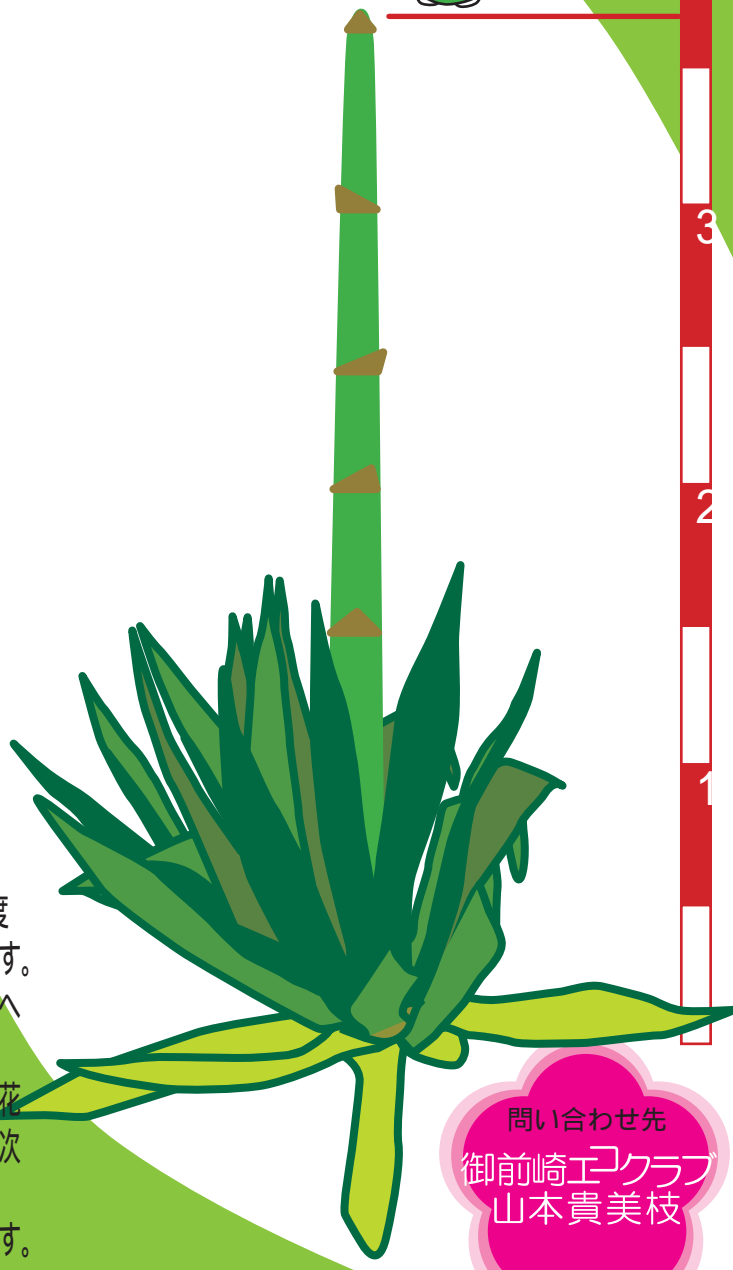


リュウゼツラン成長日記

- 5月 1日 花茎 120 cm 竹の節のような部分から枝になる芽のようなものが出始めているのを発見。
- 5月 9日 花茎 250 cm 下部の葉が茶色に変色して枯れ始める。養分を茎に送り葉の役目を終えたようだ。
- 5月 13日 花茎 305 cm 茶色だった茎が緑色に変わってきた。
- 5月 16日 花茎 350 cm 大きなグリーンアスパラのように。茎の表面はザラついています。
- 5月 19日 花茎 370 cm 茎がどんどん伸びています。



(5月 19日撮影)



アオノリュウゼツラン

リュウゼツラン科
リュウゼツラン属

メキシコを中心にアメリカ南部と中南米の熱帯域に自生します。成長が遅く花を咲かせるのに数十年を要し、あまりの成長の遅さに10年に一度開花するという意味でセンチュリープラントという英語別名が付けられています。日本では30~50年で開花し、開花時期を迎えた株は、株の中心から伸びる花茎へと養分の転流が起こり下の葉から枯れ始めるとともに花茎が急成長します。花茎は日に10センチほど成長し、2か月ほどで高さ10メートルにもなり多くの花をつけます。開花後は枯れてその生涯を閉じますが、同時に周囲に子株を作り次代へと引き継がれます。ここエコパークでは、過去に2008年と2011年、2013年に開花した実績があります。花の咲いている姿を見ることができるのは大変珍しいことでもあります。

問い合わせ先
御前崎エコクラブ
山本貴美枝